



子どもが、お酒を飲んではいけないのはなぜ

お酒にはアルコールがふくまれているから

お酒にはアルコールがふくまれており、体の中に入ると、アセトアルデヒドという、毒のようなものになります。

大人の場合には、少くらのいのお酒なら、この、体の中でできた、アセトアルデヒドをなくしてしまうはたらきが、体の中にあります。

しかし、子どもの場合には、このはたらきが、まだ体の中にできていないため、お酒を飲んではいけないのです。

お酒は、体のいろいろなはたらきを弱める

お酒というのは、アルコールを1パーセント以上ふくんだ、飲料水です。

お酒を飲むと、アルコールが胃のかべをあらします。そして、アルコールは、アセトアルデヒドというものになります。

アセトアルデヒドは、お酒による原因となるもので、二酸化炭素とともに、脳のはたらきをまひさせたり、血圧を低下させたりします。また、ビタミンのはたらきを止めたり、食べ物の栄養分を、たんぱく質から糖へ変える、体のはたらきを弱めたりします。

そのため、体力や能力が、まだよく発達していない子どもは、お酒を飲んではいけないのです。（監修・保志 宏）

